

# 篠原の里だより

2019  
春  
第68号

春の南風に、校庭の満開の桜が舞っています。新学期も始まり、一回り大きくなった子ども達の笑顔がはじけています。ギフチョウを観察しに来る人たちも笑顔です。

今回の里だよりは、充実した寄稿が多くいただけましたので、特別拡大版でお届けします。

## ■ジジ石・ババ石めぐり■

伝説を手と足で辿り。物語を手中に納める。

二月十六日。篠原の里新春の集いで行われたのが、伝説の地「ジジ石・ババ石」への、ハイキングである。総勢二十三名。まずは兵隊送りの地にて往時を忍び、さらに横通りを進む。ジジ石まで果敢に登ろうという大人グループが先行。懸崖のようなババ石に登り眺望を堪能した後、道なき尾根を果敢に登って、ジジ石に。さらに登りつめて大明神展望台を経て、大明神の祠に参拝。谷戸沢右岸にのびる長大な尾根を辿り篠原の里へ帰還したのである。一方、兵隊送りから、わずかに旧日連村域に入り、これも忘れられている観音沢の古い岩像を訪ねた子供や保護者も、先行組の直後にババ石までしっかりと登り詰めた。

ところで、「ジジ石・ババ石」伝説とは何なのか。山仕事で喧嘩になった老夫婦。ババがジ

ジを鎌で切りつけ、怒ったジジがババを山から落としたとのこと。その二人が岩となったのがジジ石でありババ石。ついでは、老夫婦の帰りが遅いので、迎えに行った孫はマゴ石になったのだとか。確かに、それにふさわしい岩がそれぞれにドンと構え物語がリアリティーを持って立ち現れてくる。

そして、この物語がさらに面白いところは、世代によっても、また篠原というその地域の中にあっても、それぞれに違う色に輝く物語として伝わっている点にある。

父親の炭焼きの手伝いで山に入った際に、遠くに見える岩を「ジジッコ石」と教えられた。そう語るのが、河内正道さん。一方、福寿院の住職である岩木晃範さんは、子供の頃には一度も訪れたことがなく、今回がはじめての訪問であるという。少し若い世代となる佐藤文男さんは「小学校高学年になると、度胸試しでババ石に登った」と語り、さらに「その岩の隙間に硬



貨を隠してきた。」  
と思ひ出す。さらに、

岩伝いに登ってゆくと、ババ石手前がとてもスリリングだったと語るのが加藤正樹さんだ。

同じ篠原の住人で

あつても、その生年や育った場所により、伝説の体験はずいぶん違うものなのだ。明文化された資料は故高橋先生の資料にあるのみで、どちらかといえば口伝と生活に生きてきた物語。今回のハイキングは、忘れられかけていたその物語を再生させ、再び様々な色の命を吹き込む大きなきっかけとなる、贅沢なものとなった。(三宅 岳)

## ■のびるっ子卒園にあたって■

どもども、山本と申します。のびるっ子保育園には二人の娘がお世話になっていきます。桜が少しだけ咲き始めたこの三月に長女が卒園し





ました。つまり、僕も父として七年目の春を迎える事となりました。長女が妻のお腹から出てきて産声をあげた時、本当に、本当に目に入れても痛くない存在がこの世の中にはあるんだな、と実感しました。僕は三人兄弟の長男とし



て育ったもんですから、得体の知れない女の子を育てることにどうしていいかわからなかった。そんな不器用で未熟でポンコツな僕を父親にしてくれたのは彼女でした。まだまだ欠陥ばかりの父ですが。

その長女は、のびるっ子で大きく大きく育てていただきました。入園前、運動会を見学した時、壁登りを登れずにいる年長の園児をいつまでも待ち続ける園の姿勢に、僕は大きな疑問を感じていました。

「先生はなんで手を貸してやらないんだ」「ウチの娘だったら見てられないなあ」と。実はね、僕は怒りさえ覚えていたんですよ。けどそんな思いは、娘の入園と共に一変しました。

——この保育園は、子どもたちを信頼しきっているし、何より自主性を大事にしているんだなあ、と。

「自主性」って言葉、皆さんどう感じていますか？ 多様性なんていう言葉がありふれるようになり、「人からあてがわれた自主性」つまりは自由の意味というのは、ますます難しい次代になったなあと思っています。

だけど、自分で手にした自主性は自由という意味をぐんと広げてくれるし、未来を生きる糧になり財産になる。のびるっ子での日々のひとつひとつを通して、自由を自分で手にする自主性を育んでもらえたと思っています。

さて、長女が年長になった年の運動会。壁登りでは最後の最後まで、一人になってもあきらめずに壁に立ち向かう長女の姿がありました。自分で納得いくまで、ただただ壁に立ち向かう彼女の姿を僕は目に焼き付けていました。そして、決められた課題、用意されたゴールをクリアすることで褒められ続けてきた僕の子ども時代を振り返り、自分が未熟なままオトナになってしまったことを思い知りました。

表現はいろいろありましようが、長女はたくましく成長しています。そんな彼女を通して

て、何度も何度も僕に気づきを与えてくれる場所がのびるっ子でした。

園児の親御さんたちとの交流、篠原の地域のみなさんとの繋がりも忘れられません。朝、娘を送ると、父親ばかりということも日常です。よく、新井壘さんが「朝っぱらから親父がこんなに集まって大丈夫なのかよ！この親父たちは大丈夫なんだろうけど」と話していたの思い出します。僕はここの父親たちからもたくさんギフトをもらったと思っています。

そろそろ園の桜も満開を迎える頃でしょうか。のびるっ子では、子どもたちも親たちも、もしかしたら先生たちも、新しい発見と気付きに溢れた一日を今日も過ごしていることと思います。（のびるっ子保護者・山本泰行）

## ■篠原スキー学校■

二月二日、篠原子供会主催で日帰りのスキー旅行に行ってきました。

この企画は昨年続き二回目になります。子供会は四家族のこじんまりとした集まりなので、せっかくなら大勢が良い！という事で篠原、里会員、のびるっこにも声を掛けさせ





てもらって、総勢三十九人(十四家族)の参加となりました。

昨年はインフルエンザが猛威を振るい来られなかった子供たちも無事参加でき、主催者としても一安心。インストラクターとして協力いただいた檜嶋さんのお蔭で、全くの初心者の方も九名参加する事ができました。上級者はコースの上まで登り、アルプスの絶景を眺め、思い思いにスキーを楽しんできました。



子供会では来年も引き続き企画したいと考えています。年齢問わず、皆で楽しめる旅行にしたいと思いますので、ぜひご参加ください。

(安井真二)

### ■醤油絞りのワークショップ■



毎日使う醤油(しょうゆ)を、自分たちで作りしよう!と活動しているグループが、三月三〇日、篠原の里でワークショップを行いました。朝八時三〇分、軽トラックに道具をびっしり乗せ、醤油絞りマイスターの高橋さん到着。次々と道具を下ろし、あっと言う間にいつもの里のグラウンドが醤油絞り会場になっていました。

淡々と作業をしながらも、三日間寝る間もないほどの掛かる麴の温度管理のお話や、同じように仕込んでも、まったく同じには出来上がらない醤油の話を、わが子の事を話すかのように愛情いっぱい話して下さいました。

約二〇名の参加者の方々は、初めての絞りの醤油の色や味、香りを楽しみました。醤油作りで自分達が味わった感動を皆と共有したい!その思いだけで始めたワークショップ、間違いなく感動を共有できたと感じた一日でした。

(篠原醤油 安井清美)



### ■生物多様性ネット会員交流会■

さがみはら生物多様性ネットワークの会員交流会が三月八日、篠原の里で行われました。

当日は、団体の活動内容紹介を行った後、賛助会員の池竹さんに植物観察会を行ったいただきました。ちょうど春の野草がたくさん芽を出してきたところで、食べられるものや特徴の見分け方等を教えていただきました。またサークル活動で「生物部」が設置している動物観察カメラの現地を視察してもらいました。

午後は小グループに分かれて各会員団体の  
情報交換を行いました。

篠原の里が里山の自然を活かして地域づく  
りを行っていることを知っていただく、良い機  
会になりました。



### ■今後のスケジュール■

| 里全体           |             |
|---------------|-------------|
| 4/19（金）18:30～ | しのさとミーティング  |
| 5/9（木）19:00   | 理事会         |
| 5/18.19（土・日）  | 陶器市         |
| 5/26（日）17:00～ | 総会          |
| 6/14（金）18:30～ | しのさとミーティング  |
| 6/22（土）       | ホテルの夕べ      |
| 「のびるっ子」       |             |
| 4/24（水）10:00  | 子育てサロン「わはは」 |
| 5/22（水）10:00  | 子育てサロン「わはは」 |
| 6/26（水）10:00  | 子育てサロン「わはは」 |

★里カフェ★

毎週金曜お昼／夕方五時



★会員募集中★

篠原の里では、いつでも会員を募集しています。  
ぜひ、皆さんの力で篠原の里を支えてください。  
☆サポーター会員（年会費一口三千元）  
特典① 宿泊費・施設利用料が割引になります  
（同伴者は本人含む 五名まで適用）  
特典② 施設利用予約が一年前からできます  
特典③ サークル活動を設立、ま  
たは参加することができます



発行NPO法人篠原の里

〒二五二〇一八六相模原市緑区牧野二八八一

電話 〇四二一六八九二〇五一

FAX 〇四二一六八九二〇七七